

過疎地域の自立を支える特別な法律が来年3月に期限を迎えます。その為、新過疎法の成立を目指す総決起大会に出ています。会場の前には夜間照明に浮かび上がる東京タワーと、眼下には浄土宗総本山と芝公園。朝夕には、ジョギングや散策、観光スポットで賑わう所です。朝食後散歩がてら、公園ベンチで原稿をしたためています。

妹背牛町でも、初冬を迎え新型コロナウイルスに、旧型コロナ（普通の風邪）と、インフルエンザなど、心配の種が目白押しです。しかし、これだけ手洗い、うがい、マスクという公衆衛生が徹底されている以上、それ以上の心配は無用かと思えます。どなたにおいても風邪をひくのは仕方ない事。お大事にと健康を気遣う生活に早く戻りたいものです。季節の変わり目には無理をせず、身体を暖かくし早め早めの休養を。そして、陽射しの弱まる厳冬期には、私たち自身に暖かい太陽を燃やし、人もも暖めながら、運動不足にも心配りし、町民皆で新しい春を迎えたいと願うものです。

町長 田中一実

モー突進レポート

SHOW TIME
翔たいむ

vol.18



今回の翔たいむでは僕、笹尾翔大が社会福祉協議会で行っている手作りマスクボランティアに参加しマスクづくりを体験しました。

このマスクづくりは社会福祉協議会から呼びかけられ集まったボランティアの皆さんで行われています。大きな布から各工程ごとにグループに分かれて作業を行なっています。

4月から6月にかけて行われた第一弾では完成後、町内の小、中学校に寄贈。11月から行われている第二弾では一人暮らしの70歳以上のお宅を訪ねる「愛のふれあい訪問」の際に配布されます。

老人福祉センターの運動指導室で火曜日と木曜日に行なわれている作業に参加し実際にマスクを作成しました。

作業中はマスクにフェイスクガードをつけ、濃厚接触を避けます。まずは、布を裁断する作



業。布は表面に使用される生地と裏面に使用されるガーゼ生地の2種類があり、ガーゼ生地は柔らかいため、裁ちばさみでも切るのが難しかったです。ボランティア

マスクを作成

手作りマスクボランティア 社会福祉協議会



アの山崎三恵子さんからゆっくり地道に切ると上手に行くコツを教えてくださいました。

次は切った生地をミシンで縫い合わせていきます。アイロンで形を整えながら、集中し

て丁寧に仕上げていきました。完成したマスクは顔の大きな僕でもつけることができると裏のガーゼ生地が肌に優しく付けて心地がとてよかったです。

参加しているボランティアの皆さんは全グループで合わせて24名。お話を伺うと「コロナ禍ではあるけれど家でじっとしていると気が滅入ってしまう。もちろん感染症対策を取りながら、こうやってみんなで作業



マスクをつけさせていただきました

をして誰かのためになるのだからとてもいいことだと思います。」と話してくれました。